

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
第3回「HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」

A調査【ブロック拠点病院とACC調査】報告書

2014年

「HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」の流れ

医療の進歩に伴い余命の延伸したHIV陽性者の生活には、医療機関での健康管理と共に、地域や職場での社会生活の重要性が高まっています。

そこで私たちは、行政や企業、学校、保健医療福祉機関、地域等の人々、HIV陽性者が、HIV感染症を理解したり支援策を立てたりするための基礎資料を作る目的で、2003年より、全国のHIV陽性者を対象に健康と生活の実態調査を行ってきました。

2013年度に実施した第3回調査は、病院種別で2つの調査に分けて実施しました。本報ではA調査の結果をご報告します。

第1回調査：2003年度 5病院 566名

【対象病院】 ACC・ブロック拠点病院、中核拠点病院の5病院（北海道・東京・大阪・九州）

【方法】 20歳以上65歳未満の外来受診HIV陽性者を対象に、無記名自己記入式質問紙を医療者より配布、HIV陽性者自身が郵送にて調査事務局に返信。症状等で調査依頼困難な人、初診の人、日本語の読解が困難な人は対象外。九州と北海道は期間を限定せず配布、東京は1か月間、大阪は150票を配布。

【配布回収】 配布754票、回収566票（回収率72.3%）

【調査期間】 2003年12月から2004年5月

【研究主体】 平成15-16年度厚生労働科学研究費補助金「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」（代表:木村哲）分担研究「HIV感染者の地域生活支援におけるソーシャルワークに関する研究」（分担研究者：小西加保留、協力研究者：生島嗣、若林チヒロ）

第2回調査：2008年度 33病院 1,203名

【対象病院】 ACC、ブロック拠点病院、中核拠点病院（2008年6月現在）の59病院に依頼状を郵送、35病院から返信があり、33病院から協力可能の承諾を得て、各病院の配付可能数を集約した。

【方法】 外来受診HIV陽性者を対象に、医療者が無記名自己記入式質問紙を配布。HIV陽性者自身が郵送にて調査事務局に返信。配布は外来受診順としたが、症状等で依頼困難な人、初診の人、日本語の読解が困難な人は対象外とした。

【配布回収】 配布1,813票、回収1,203票（回収率66.4%）

【調査期間】 2008年12月～2009年6月。

【研究主体】 平成20-22年度厚生労働科学研究費補助金「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」（代表:生島嗣）分担研究「HIV陽性者の就労と社会参加に関する調査」（分担研究者：若林チヒロ）

第3回調査：2013年度 31病院 1,469名

【方法】 外来受診HIV陽性者を対象に、医療者が無記名自己記入式質問紙を配布。HIV陽性者自身が郵送にて調査事務局に返信。配布は外来受診順としたが、症状等で依頼困難な人、日本語の読解が困難な人は対象外とした。

【倫理審査】 埼玉県立大学倫理委員会にて承認（承認番号25001号）。合わせて倫理審査を必要とする各医療機関の倫理委員会においても審査を受けた。

【研究主体】 平成24-26年度厚生労働科学研究費補助金「HIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」（代表：樽井正義）分担研究「HIV陽性者の生活と社会参加に関する調査」（分担研究者：若林チヒロ、研究協力者：生島嗣,ほか）

【A調査】 ブロック拠点病院とACC調査 9病院 1,100名

【配布回収】 対象者数は各病院の陽性者数の40%とし、2病院は実施体制等を考慮して抽出率を下げた。

配布1,786票、回収1,100票（回収率61.6%）

【調査期間】 2013年7月～12月

【対象病院】 ACCと全国8地域の各ブロック病院の計9病院。地域内に複数のブロック病院が指定されている場合は、もっとも陽性者数の多い1病院を対象とした。

- ・北海道大学病院
- ・独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
- ・独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
- ・独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
- ・独立行政法人国立国際医療研究センター/ACC
- ・広島大学病院
- ・新潟大学医歯学総合病院
- ・独立行政法人国立病院機構九州医療センター
- ・石川県立中央病院

【B調査】 中核拠点病院等調査 22病院 369名

【配布回収】 各病院の陽性者数と配布可能数を考慮して配布数を確定した。

配布687票、回収369票（回収率53.7%）

【調査期間】 2013年8月～2014年4月

【対象病院】 すべてのエイズ治療中核拠点病院（2012年9月現在）と、A調査で対象外としたブロック拠点病院に、郵便とメールで調査協力を依頼し、実施可能と返信があった病院を対象とした。58病院中30病院から回答があり、26病院が可能であった。

実施段階で日程等の都合で4病院が対象外となり、最終的に22病院を対象とした。

- ・札幌医科大学附属病院
- ・岐阜大学医学部附属病院
- ・旭川医科大学病院
- ・滋賀医科大学附属病院
- ・大館市立総合病院
- ・京都大学医学部附属病院
- ・筑波大学附属病院
- ・広島市立広島市民病院
- ・群馬大学医学部附属病院
- ・独立行政法人国立病院機構関門医療センター
- ・都立駒込病院
- ・香川大学医学部附属病院
- ・横浜市立大学附属病院
- ・長崎大学病院
- ・山梨県立中央病院
- ・熊本大学医学部附属病院
- ・新潟市民病院
- ・宮崎県立宮崎病院
- ・長野県立須坂病院
- ・鹿児島大学病院
- ・福井大学医学部附属病院
- ・琉球大学医学部附属病院

研究者一覧

研究分担者：若林 チヒロ（埼玉県立大学健康開発学科）

研究協力者：生島 嗣、大槻 知子（特定非営利活動法人ぷれいす東京）

大木 幸子（杏林大学保健学部看護学科）

遠藤 知之、渡部 恵子、坂本 玲子（北海道大学病院）

鳥本 悦宏、矢羽々 みえ子（旭川医科大学病院）

伊藤 俊広、伊藤 ひとみ（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）

高崎 義博（大館市立総合病院）

小川 孔幸、柳澤 邦雄、石崎 芳美（群馬大学医学部附属病院）

岡 慎一、池田 和子、大金 美和

（独立行政法人国立国際医療研究センター、エイズ治療・研究開発センター）

味澤 篤、今村 顕史、菅沼 明彦、柳澤 如樹（都立駒込病院）

水口 由佳、高木 愛子、友田 安政（横浜市立大学附属病院）

宮下 義啓（山梨県立中央病院）

田邊 嘉也、川口 玲、石塚 さゆり（新潟大学医歯学総合病院）

塚田 弘樹（新潟市民病院）

齊藤 博（長野県立須坂病院）

上田 幹夫、山田 三枝子、高山 次代（石川県立中央病院）

岩崎 博道（福井大学医学部附属病院）

鶴見 寿、石原 正志、鶴見 広美（岐阜大学医学部附属病院）

横幕 能行、羽柴 知恵子（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）

小泉 祐介、美濃 亜朱（滋賀医科大学附属病院）

小林 正行、高折 晃史、松井 佑亮、北川 綾子（京都大学医学部附属病院）

白阪 琢磨、下司 有加、岡本 学（独立行政法人国立病院機構大阪医療センター）

藤井 輝久、鍵浦 文子、木下 一枝（広島大学病院）

野田 昌昭（広島市立広島市民病院）

窪田 良次（香川大学医学部附属病院）

山本 政弘、城崎 真弓（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）

古本 朗嗣（長崎大学病院）

松下 修三、宮川 寿一、中田 浩智（熊本大学医学部附属病院）

菊池 郁夫（宮崎県立宮崎病院）

橋口 照人、古川 良尚、恒吉 里美（鹿児島大学病院）

健山 正男（琉球大学医学部附属病院）

佐藤歩実、片岡莉恵（埼玉県立大学）

調査項目一覧

1. 基本的属性について		P.6
1) 性別	4) 学歴	
2) 年齢	5) 在学・卒業	
3) 感染経路	6) 国籍	
	7) 階層帰属意識	
2. HIV 関連の健康状態と健康管理		P.8
1) CD4 細胞数	6) HIV 診療での通院頻度	
2) HIV ウイルス量	7) すべての診療での通院頻度	
3) エイズ発症	8) 定期受診している病気、けが、妊娠	
4) 抗 HIV 薬の服用回数	9) この 1 年間の入院日数	
5) HIV 受診病院の所在地	9-1) この 1 年間の入院理由	
3. ふだんの健康状態と健康行動		P.10
1) 主観的な健康感	7) 喫煙	
2) 健康問題による日常生活への影響	7-1) 喫煙本数と喫煙開始年齢	
3) 自覚症状	8) 飲酒	
4) すいみん時間	8-1) 飲酒の回数と量	
5) すいみんでの問題	9) メンタルヘルス (K 6 尺度)	
6) すいみん薬・安定剤の使用		
4. HIV 陽性とわかった当時とその後の生活		P.14
1) HIV 検査機関	8) 告知時の就労の有無	
2) HIV 告知年	8-1-1) 【就労者に】告知時の就労形態	
3) HIV 告知を受けた地域	8-1-2) 【就労者に】告知時の雇用形態	
4) HIV 告知時のエイズ発症	8-2) 【非就労者に】告知時の職業	
5) 感染可能性の認識	9) 告知後の離転職	
6) 居住地	9-1) 離職理由	
7) 告知後の居住地移動		
7-1) 【転居した人に】転居理由		
5. 世帯や生計、制度の利用		P.20
1) 同居者	5) 健康保険	
2) 世帯の家計主	6) 健康診断	
3) 世帯の年収	7) 障害者手帳	
3-a) 世帯の収入源	8) 障害者雇用制度での就労の有無	
3-b) もっとも主な収入源	9) 障害者雇用制度の利用意向	
4) 暮らし向き	10) 障害者雇用制度の評価	
6. ふだんの生活と人間関係		P.23
1) 地域活動・社会活動・陽性者ネットワーク	6) 将来の生活設計	
2) 周囲の人たちへの病名開示	7) 病気による制約感	
3) HIV 開示しての就学・就労の相談先	8) HIV 告知以降の生活意識変化	
4) 主治医からの就労アドバイス	9) HIV による差別回避行動	
5) 将来の就労意向	10) 差別経験	
7. 就労について		P.29
1) 就労の有無		
8. 就労の状況		P.29
1) 1 か月の就労日数	6) 職種	
2) 1 週間の就労日数と時間	7) 勤務先の企業規模	
3) 健康問題による休暇・休業	8) 勤務先の業種	
4) 就労収入	9) 職場でプライバシー漏洩が不安な事項	
5) 雇用形態	10) 仕事・職場の評価	
9. 非就労の状況		P.34
1) 非就労の理由	3) 就労希望	
2) 就労準備状況	3-1) 就労希望者の非就労期間	
	4) 就労や就職活動の問題点	
10. 日本のエイズ対策への評価		P.36
1) 行政、医療、社会のエイズ対策評価		
11. 薬物について		P.36
1) ドラッグ使用経験の有無	2) 必要な薬物の情報や相談	
1-1) 種類別薬物使用経験	3) 薬物の相談先	
1-2) 薬物開始時期		
1-3) 薬物使用量のコントロール感		

■ 単純集計結果 ■

結果の読み取りに際して

- ・「%」は、欠損値を除いて集計した。
- ・各表の下に付したコメントの数値のうち、2項目以上を加算している場合は、度数から再計算している。そのため、表中の値を単純加算した値とは必ずしも一致しない。
- ・複数回答の質問（1つの質問に対して2つ以上の選択肢を選ぶ質問形式）の場合、回答した人の人数を「全体」で示し、それぞれの選択肢に回答した人数の「全体」に対する割合を「%」で示している。そのため、合計すると100.0%を超える場合がある。
- ・健康状態は、回答がHIV陽性者自身によるものであるため、医学的診断とは必ずしも一致しない。

1. 基本的属性について

(1) 性別

Q. 性別

	n	%
男性	1039	95.1
女性	51	4.7
その他	2	0.2
小計	1092	100.0
無回答	8	
合計	1100	

回答者の95.1%が男性で、女性は4.7%、その他が0.2%。

(2) 年齢

Q. 年齢

	n	%
20～24歳	15	1.4
25～29歳	53	4.9
30～34歳	124	11.5
35～39歳	203	18.8
40～44歳	226	20.9
45～49歳	162	15.0
50～54歳	86	7.9
55～59歳	77	7.1
60～64歳	67	6.2
65～69歳	42	3.9
70～74歳	17	1.6
75～79歳	8	0.7
80～84歳	2	0.2
小計	1082	100.0
無回答	18	
合計	1100	

平均44.6 ± 11.3歳、20～84歳まで広く分布している。60歳以上が12.6%、65歳以上は6.4%。

(3) 感染経路

Q. あなたのHIV感染経路と思うもの(複数回答)

	n	%
異性間の性的接触	181	16.6
同性間の性的接触	861	78.8
注射器の共用	21	1.9
血液凝固因子製剤	48	4.4
血液凝固因子製剤の二次・三次感染	1	0.1
輸血	5	0.5
その他	8	0.7
不明	45	4.1
全体	1092	
無回答	8	
合計	1100	

同性間の性的接触が感染経路という人は78.8%、異性間の性的接触という人が16.6%、感染経路が不明とする人は4.1%。

(再集計) 厚生労働省の
エイズ動向委員会報告の分類により再集計

	n	%
注射器の共用	7	0.6
異性間の性的接触	135	12.4
同性間の性的接触	841	77.0
血液凝固因子製剤	49	4.5
その他	26	2.4
不明	34	3.1
小計	1092	100.0
無回答	8	
合計	1100	

(4) 学歴

Q. 最終学歴 (学生の方は在学先)

	n	%
小・中学校	38	3.5
高校	291	26.7
専門学校	215	19.8
短大・高専	55	5.1
大学	437	40.2
大学院	52	4.8
小計	1088	100.0
無回答	12	
合計	1100	

大学が40.2%と多い。

(5) 在学・卒業

Q. 上記の学校の在学・卒業

	n	%
在学中(休学を含む)	8	0.8
卒業	950	90.7
中退	89	8.5
小計	1047	100.0
無回答	53	
合計	1100	

(6) 国籍

Q. 国籍

	n	%
日本	1072	98.3
日本以外	18	1.7
小計	1090	100.0
無回答	10	
合計	1100	

調査票レベルの日本語読み書きが可能な方が対象のため、外国籍の方が1.7%と少ない。

(7) 階層帰属意識

Q. 世間一般の暮らしぶりを6つに区分すると、あなたの世帯はどの辺りにあてはまると思えますか

	n	%
上の上	2	0.2
上の下	27	2.5
中の上	347	31.9
中の下	444	40.8
下の上	191	17.6
下の下	76	7.0
小計	1087	100.0
無回答	13	
合計	1100	

中流という方が72.8%と多いが、下流とした方も24.6%。

2.HIV関連の健康状態と健康管理

(1) CD4 細胞数

Q. 直近の CD4 値 (個 / μ l)

	n	%
～99	40	3.7
100～	52	4.8
200～	163	15.2
350～	331	30.8
500～	470	43.8
分からない	18	1.7
小計	1074	100.0
無回答	26	
合計	1100	

500 個 / μ l 以上の人が 43.8% と最も多い。全体の 89.8% の人は 200 個 / μ l 以上である。

(2) HIV ウイルス量

Q. 直近の HIV ウイルス量

	n	%
検出限界以下	747	70.0
検出された	270	25.3
分からない	50	4.7
小計	1067	100.0
無回答	33	
合計	1100	

70.0% の人がウイルス量を検出限界以下に抑えている。

(3) エイズ発症

Q. エイズ発症

	n	%
経験あり	313	29.0
経験なし	708	65.7
分からない	57	5.3
小計	1078	100.0
無回答	22	
合計	1100	

エイズ発症経験がある人は 29.0%。

(4) 抗 HIV 薬の服用回数

Q. 抗 HIV 薬の 1 日の服用回数

	n	%
1 回	630	58.1
2 回	387	35.7
3 回以上	8	0.7
服薬を始めている	59	5.4
小計	1084	100.0
無回答	16	
合計	1100	

94.6% の人が抗 HIV 薬を服用している。58.1% の人は 1 日 1 回の服用。

(5) HIV 受診病院の所在地

Q. HIV で主に受診している病院の所在地

	n	%
北海道	37	3.4
宮城県	23	2.1
埼玉県	3	0.3
東京都	442	40.9
新潟県	8	0.7
愛知県	157	14.5
石川県	24	2.2
滋賀県	1	0.1
大阪府	273	25.3
兵庫県	2	0.2
広島県	31	2.9
福岡県	80	7.4
小計	1081	100.0
無回答	19	
合計	1100	

配付は ACC とブロック病院であるが、複数の医療機関を受診している人が数名おり、主な HIV 受診病院の所在地は 12 都道府県に及んだ。

(6) HIV 診療での通院頻度

Q.HIV 診療での通院頻度

(7) すべての診療での通院頻度

Q.HIV に加えて、その他の病気やけが、妊娠も含めて、すべての診療での通院頻度

	HIV 診療での通院頻度		すべての診療での通院頻度	
	n	%	n	%
1 ヶ月に 2 回以上	23	2.1	184	17.5
1 ヶ月に 1 回	257	23.8	303	28.8
2 ヶ月に 1 回	258	23.8	234	22.3
3 ヶ月に 1 回	538	49.7	326	31.0
4 ヶ月 1 回	3	0.3	2	0.2
5 ヶ月以上に 1 回	3	0.3	2	0.2
小計	1082	100.0	1051	100.0
無回答	18		49	
合計	1100		1100	

HIV 診療の通院頻度は、3 ヶ月に 1 回の人 が 49.7% と最も多い。

HIV 診療での通院頻度が 1 ヶ月に 2 回以上の人は 2.1% であるが、HIV 以外の疾患等も含めたすべての診療では 17.5% である。

(8) 定期受診している病気、けが、妊娠

Q.HIV 感染症以外で、定期的に診察を受けている病気、けが、妊娠（複数回答）

	n	%
糖尿病	61	6.0
高脂血症	50	4.9
高血圧症	78	7.6
心臓の病気	32	3.1
B 型肝炎	61	6.0
C 型肝炎	52	5.1
腎臓病・透析	19	1.9
胃腸病・痔	28	2.7
うつ・心・精神の病気	115	11.2
依存症	8	0.8
がん	22	2.1
アレルギー疾患	78	7.6
血友病・血液凝固因子症	39	3.8
歯・口腔の病気	181	17.7
眼の病気	88	8.6
骨折・けが	15	1.5
HIV 以外の性感染症	27	2.6
婦人科系の病気	19	1.9
妊娠・出産	1	0.1
不妊治療	1	0.1
その他	96	9.4
とくになし	368	35.9
全体	1025	
無回答	75	
合計	1100	

64.1% の人は HIV 感染症以外の疾患等で定期受診している。「歯・口腔の病気」17.7%、「うつ・心・精神の病気」11.2% など、多様な目的で受診している。「その他」は、皮膚疾患、整形外科関連の疾患など多様。

定期受診疾患等数

	n	%
1 種類	384	37.5
2 種類	182	17.8
3 種類	55	5.4
4 種類	24	2.3
5 種類	10	1.0
6 種類	2	0.2
とくになし	368	35.9
小計	1025	100.0
無回答	75	
合計	1100	

HIV 以外で定期受診している疾患等の数は、21 種類のうち 1 種類を挙げた人が全体の 37.5%、2 種類以上挙げた人は 26.6%。

(9) この1年間の入院日数

Q.HIVに関わらず、この1年間の入院日数

	n	%
1～9日間	68	6.3
10～29日間	56	5.2
30日間以上	43	4.0
日数不明	3	0.3
入院なし	914	84.3
小計	1084	100.0
無回答	16	
合計	1100	

過去1年間に入院した人は15.7%で、84.3%は入院していない。

(9-1) この1年間の入院理由

Q.この1年間に入院した理由（複数回答）

	n	%	「入院あり」 170名中 の%
HIV関連の服薬や副作用	14	1.3	8.2
C型肝炎	12	1.1	7.1
HIV関連の疾患や症状	53	4.9	31.2
HIVやC型肝炎とは 関連のない疾患やけが	38	3.5	22.4
HIVとの関連は不明の 疾患や症状	56	5.2	32.9
妊娠・出産	4	0.4	2.4
その他	7	0.6	4.1
入院なし	914	84.3	
全体	1084		
無回答	16		
合計	1100		

この1年間に入院した170名の入院理由のうち、HIV関連（「HIV関連の疾患や症状」と「HIV関連の服薬や副作用」）は39.4%。陽性者自身による回答のため、「HIVとの関連は不明の疾患や症状」も32.9%。HIV関連ではない疾患やけが、妊娠による入院も少なくない。

3. ふだんの健康状態と健康行動

(1) 主観的な健康感

Q.あなたの現在の健康状態

	n	%
よい	357	33.0
まあよい	306	28.3
ふつう	307	28.4
あまりよくない	102	9.4
よくない	10	0.9
小計	1082	100.0
無回答	18	
合計	1100	

主観的健康感は61.3%がよい（「よい」「まあよい」）、10.4%がよくない（「あまりよくない」「よくない」と回答）。

(2) 健康問題による日常生活への影響

Q.現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか

	n	%
影響あり	219	20.4
影響なし	855	79.6
小計	1074	100.0
無回答	26	
合計	1100	

Q.具体的にはどのようなことですか（複数回答）

日常生活への影響	n	%	「影響あり」 216名中 の%
日常生活動作（起床、衣服着脱、 食事、入浴等）	59	5.5	27.3
外出（時間や作業量などが制限）	63	5.9	29.2
仕事、家事、学業 （時間や作業量などが制限）	115	10.7	53.2
運動・スポーツ	93	8.7	43.1
その他	42	3.9	19.4
影響なし	855	79.8	
全体	1071		
無回答（主問）	26		
無回答	3		
合計	1100		

影響が「ある」と感じている人は20.4%。具体的には、「仕事・家事・学業」に影響がある人が最も多く、全体の10.7%。「その他」としては、睡眠障害、精神障害・精神的な不安定さ、仕事との関連での疲労感、血友病の人では歩行障害を挙げた人が多かった。HIV以外の疾患も含めた治療薬の副作用も挙げられた。

(3) 自覚症状

Q. この数日、病気やけがなどで体の具合の悪いところがありますか。どのような症状ですか

	n	%
ある	616	57.8
ない	450	42.2
小計	1066	100.0
無回答	34	
合計	1100	

自覚症状がある人は 57.8%。具体的には、「体がだるい」 20.6%、「皮膚のかゆみ」 16.9%、「下痢」 15.9%、「肩こり」 14.8%、「発疹」 11.7%、「眠れない」 10.7% の順（全体の %）。

		(複数回答)		
		n	%	「症状あり」 616 名中の %
全身	熱がある	33	3.1	5.4
	体がだるい	220	20.6	35.7
	眠れない	114	10.7	18.5
	いらいらしやすい	99	9.3	16.1
	もの忘れ	74	6.9	12.0
	頭痛	80	7.5	13.0
	めまい	45	4.2	7.3
胸・呼吸	どうき	31	2.9	5.0
	息切れ	39	3.7	6.3
	胸の痛み	24	2.3	3.9
	ゼイゼイする	18	1.7	2.9
	せき・たん	97	9.1	15.7
	鼻づまり・鼻水	72	6.8	11.7
腹・消化	胃のもたれ・胸やけ	62	5.8	10.1
	吐き気	47	4.4	7.6
	下痢	170	15.9	27.6
	便秘	47	4.4	7.6
	食欲がない	43	4.0	7.0
	腹痛・胃痛	38	3.6	6.2
	ぢの痛み / 出血	32	3.0	5.2
目耳口歯	目のかすみ	90	8.4	14.6
	物を見づらい	86	8.1	14.0
	耳なりがする	38	3.6	6.2
	きこえにくい	27	2.5	4.4
	歯が痛い	37	3.5	6.0
	かみにくい	15	1.4	2.4
	歯ぐきのはれ・出血	54	5.1	8.8
手足肩腰	肩こり	158	14.8	25.6
	腰痛	130	12.2	21.1
	手足の関節が痛む	72	6.8	11.7
	手足の動きが悪い	45	4.2	7.3
	手足のしびれ	71	6.7	11.5
	手足が冷える	30	2.8	4.9
	足のむくみ・だるさ	81	7.6	13.1
皮膚	発疹（じんま疹 / でき物）	125	11.7	20.3
	かゆみ（しっしん / 水虫など）	180	16.9	29.2
尿・生理	尿が出にくい・痛い	24	2.3	3.9
	尿の回数が多い	77	7.2	12.5
	尿失禁・もれる	13	1.2	2.1
	月経不順・月経痛	3	0.3	0.5
けが・他	骨折・ねんざ・脱ぎゅう	26	2.4	4.2
	切り傷・やけどなどのけが	23	2.2	3.7
	その他	25	2.3	4.1
自覚症状なし		450	42.2	
	全体	1066		
	無回答（主問）	34		
	合計	1100		

(4) 睡眠時間

Q. この1ヶ月間の、1日の平均睡眠時間

	n	%
5時間未満	86	7.9
5時間～	282	26.0
6時間～	401	37.0
7時間～	231	21.3
8時間～	66	6.1
9時間以上	19	1.8
小計	1085	100.0
無回答	15	
合計	1100	

「6時間以上7時間未満」が37.0%と多い。「5時間未満」も7.9%。

(5) 睡眠上の問題

Q. この1ヶ月間に、寝どこに入っても寝つきが悪い、途中で目が覚める、朝早く目覚める、熟睡ができないなど、眠れないことがありましたか

	n	%
ひんぱんにある	251	23.2
時々ある	457	42.2
めったにない	264	24.4
まったくない	112	10.3
小計	1084	100.0
無回答	16	
合計	1100	

65.3%の人が睡眠に問題を感じている（「ひんぱんにある」「時々ある」）。

(6) 睡眠薬・安定剤の使用

Q. ここの1ヶ月間に、眠るために睡眠薬や安定剤などの薬を使いましたか

	n	%
まったく使わない	774	71.4
めったに使わない	56	5.2
ときどき使う	94	8.7
つねに使う	160	14.8
小計	1084	100.0
無回答	16	
合計	1100	

眠るために睡眠薬や安定剤などを「つねに」使う人が14.8%、「ときどき」と合わせると23.4%。

(7) 喫煙

Q. たばこを吸いますか

	n	%
ほぼ毎日吸う	328	30.3
時々吸う	30	2.8
やめた	240	22.1
吸わない	486	44.8
小計	1084	100.0
無回答	16	
合計	1100	

喫煙率は33.0%（「ほぼ毎日」＋「時々」）。禁煙した人も22.1%。

(7-1) 喫煙本数と喫煙開始年齢

Q. (喫煙する方に) 喫煙本数と喫煙開始年齢

	n	%
1～10本	118	10.9
11～20本	185	17.1
21本以上	52	4.8
吸わない	726	67.2
小計	1081	100.0
無回答(主問)	16	
無回答	3	
合計	1100	

	n	%
17歳以下	78	7.3
18～19歳	57	5.4
20歳以上	202	19.0
吸わない	726	68.3
小計	1063	100.0
無回答(主問)	16	
無回答	21	
合計	1100	

1日21本以上たばこを吸う人は全体の4.8%。

(8) 飲酒

Q. お酒を飲みますか

	n	%
飲む	669	61.6
やめた	72	6.6
飲まない	345	31.8
小計	1086	100.0
無回答	14	
合計	1100	

飲酒率は61.6%。やめた人も6.6%。

(8-1) 飲酒の回数と量

Q. (お酒を飲む方に) 飲む回数と飲む量

	n	%
月1～3日	268	24.8
週1～2日	161	14.9
週3～4日	79	7.3
週5～6日	56	5.2
毎日	100	9.3
飲まない	417	38.6
小計	1081	100.0
無回答 (主問)	14	
無回答	5	
合計	1100	

毎日飲酒する人は全体の9.3%。

	n	%
1合未満	173	16.7
1合くらい	150	14.5
2合くらい	157	15.2
3～4合	103	10.0
5合以上	34	3.3
飲まない	417	40.3
小計	1034	100.0
無回答 (主問)	14	
無回答	52	
合計	1100	

1回の飲酒で3合以上は全体の13.2%。

(9) メンタルヘルス (K6尺度)

Q. この1ヶ月の間に、どれくらいのひん度で次のことがありましたか

精神健康についての質問 (K6尺度)

	まったくない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	小計	無回答	合計
神経過敏に感じましたか	n 571	201	198	56	46	1072	28	1100
	% 53.3	18.8	18.5	5.2	4.3	100.0		
絶望的だと感じましたか	n 620	221	147	57	31	1076	24	1100
	% 57.6	20.5	13.7	5.3	2.9	100.0		
そわそわ、落ち着かなく感じましたか	n 574	254	173	51	23	1075	25	1100
	% 53.4	23.6	16.1	4.7	2.1	100.0		
気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	n 428	329	197	78	48	1080	20	1100
	% 39.6	30.5	18.2	7.2	4.4	100.0		
何をするのも骨折りと感じましたか	n 500	290	170	80	34	1074	26	1100
	% 46.6	27.0	15.8	7.4	3.2	100.0		
自分は価値のない人間だと感じましたか	n 532	248	170	57	71	1078	22	1100
	% 49.4	23.0	15.8	5.3	6.6	100.0		

メンタルヘルスの評価はK6尺度を用いた。K6スケールは、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。6つの質問について5段階(0～4点)で点数化し(合計0～24点)、合計が高いほど精神的な問題がより重い可能性があるとしてされている。厚生労働省が実施する「国民生活基礎調査」において一般住民対象に実施されている。

K6スケールの合計得点分布

	n	%
0～4点	584	54.8
5～9点	255	23.9
10～14点	137	12.9
15点以上	89	8.4
小計	1065	100.0
無回答	35	
合計	1100	

	n	%
0～4点	584	54.8
5～12点	347	32.6
13点以上	134	12.6
小計	1065	100.0
無回答	35	
合計	1100	

4. HIV陽性とわかった当時と その後の生活

(1) HIV 検査機関

Q.HIV 陽性とわかった時の、最初の検査はどこでしたか

	n	%
保健所	215	20.1
常設検査施設	65	6.1
自己検査キット	7	0.7
郵送検査キット	11	1.0
診療所・クリニック	99	9.2
病院（外来）	376	35.1
病院（入院）	242	22.6
妊娠・出産時の検査	4	0.4
イベントでの検査	12	1.1
献血	33	3.1
その他	8	0.7
小計	1072	100.0
無回答	28	
合計	1100	

医療機関（「診療所」「外来」「入院」）が66.9%、公的検査所（「保健所」「常設検査施設」）が26.1%であった。その他の記載は、海外、人間ドッグ、治験など。

(2) HIV 告知年

Q.HIV 陽性告知を受けたのはいつでしたか

	n	%
1984	4	0.4
1985	4	0.4
1986	2	0.2
1987	2	0.2
1988	2	0.2
1989	10	1.0
1990	4	0.4
1991	6	0.6
1992	9	0.9
1993	7	0.7
1994	11	1.1
1995	8	0.8
1996	16	1.6
1997	8	0.8
1998	24	2.4
1999	18	1.8
2000	27	2.6
2001	41	4.0
2002	23	2.3
2003	39	3.8
2004	38	3.7
2005	54	5.3
2006	74	7.3
2007	79	7.7
2008	96	9.4
2009	73	7.2
2010	93	9.1
2011	93	9.1
2012	100	9.8
2013	55	5.4
小計	1020	100.0
無回答	80	
合計	1100	

HIV 告知年（再集計）

	n	%
～1995	69	6.8
1996～2000	93	9.1
2001～2005	195	19.1
2006～2010	415	40.7
2011～	248	24.3
小計	1020	100.0
無回答	80	
合計	1100	

2011年以降というこの数年内に感染が判明した人が24.3%を占める。一方で感染判明から30年近く経過している人もいる。

(3) HIV 告知を受けた地域

Q.HIV 陽性告知を受けた病院や保健所は、どこの都道府県または国にありましたか

	n	%
北海道	28	2.6
青森県	2	0.2
岩手県	2	0.2
宮城県	17	1.6
秋田県	1	0.1
茨城県	4	0.4
栃木県	3	0.3
群馬県	4	0.4
埼玉県	18	1.7
千葉県	20	1.9
東京都	374	35.1
神奈川県	33	3.1
新潟県	8	0.8
山梨県	1	0.1
長野県	2	0.2
岐阜県	6	0.6
静岡県	8	0.8
愛知県	142	13.3
富山県	1	0.1
石川県	15	1.4
滋賀県	1	0.1
京都府	9	0.8
大阪府	220	20.6
兵庫県	12	1.1
奈良県	4	0.4
和歌山県	5	0.5
島根県	1	0.1
岡山県	3	0.3
広島県	27	2.5
香川県	2	0.2
福岡県	63	5.9
佐賀県	5	0.5
長崎県	2	0.2
熊本県	3	0.3
宮崎県	2	0.2
鹿児島県	3	0.3
沖縄県	2	0.2
海外	13	1.2
小計	1066	100.0
無回答	34	
合計	1100	

調査票配付病院は 9 都道府県であるが、感染判明施設は 37 都道府県に及んでいる。「海外」という人も 1.2%。

(4) HIV 告知時のエイズ発症

Q.HIV 陽性告知を受けた際、エイズを発症していましたか

	n	%
発症していた	243	22.7
発症していなかった	738	69.0
わからない	88	8.2
小計	1069	100.0
無回答	31	
合計	1100	

告知時に既にエイズ発症をしていたと回答していた人は 22.7% だった。

(5) 感染可能性の認識

Q.HIV 陽性告知を受ける前、HIV に感染している可能性はどの程度あるとお考えでしたか

	n	%
かなりある	123	11.5
ある程度ある	453	42.3
ほとんどない	314	29.3
まったくない	181	16.9
小計	1071	100.0
無回答	29	
合計	1100	

陽性告知を受ける前に「HIV 感染の可能性が（かなり／ある程度）ある」と考えていた人は 53.8% で、46.2% の人は「可能性はない（まったく／ほとんど）」とっていた。

(6) 居住地

Q. 「HIV 陽性告知を受けた当時」と「現在」の居住地

居住地：HIV 陽性とわかった当時

居住地：現在

	n	%		n	%
北海道	29	2.7	北海道	37	3.5
青森県	1	0.1	岩手県	2	0.2
岩手県	2	0.2	宮城県	22	2.1
宮城県	19	1.8	山形県	1	0.1
秋田県	1	0.1	茨城県	4	0.4
山形県	1	0.1	栃木県	1	0.1
茨城県	7	0.7	群馬県	1	0.1
栃木県	1	0.1	埼玉県	29	2.7
群馬県	5	0.5	千葉県	33	3.1
埼玉県	30	2.8	東京都	327	30.7
千葉県	40	3.7	神奈川県	40	3.8
東京都	324	30.4	新潟県	8	0.8
神奈川県	44	4.1	岐阜県	4	0.4
新潟県	7	0.7	静岡県	5	0.5
山梨県	1	0.1	三重県	5	0.5
長野県	2	0.2	愛知県	144	13.5
岐阜県	7	0.7	石川県	24	2.3
静岡県	9	0.8	滋賀県	2	0.2
三重県	3	0.3	京都府	14	1.3
愛知県	137	12.8	大阪府	218	20.5
富山県	1	0.1	兵庫県	21	2.0
石川県	17	1.6	奈良県	5	0.5
滋賀県	2	0.2	和歌山県	6	0.6
京都府	15	1.4	島根県	1	0.1
大阪府	202	18.9	岡山県	1	0.1
兵庫県	23	2.2	広島県	28	2.6
奈良県	6	0.6	山口県	2	0.2
和歌山県	4	0.4	福岡県	71	6.7
島根県	1	0.1	佐賀県	2	0.2
岡山県	5	0.5	長崎県	2	0.2
広島県	26	2.4	熊本県	1	0.1
香川県	1	0.1	宮崎県	2	0.2
福岡県	63	5.9	鹿児島県	1	0.1
佐賀県	5	0.5	海外	2	0.2
長崎県	2	0.2	小計	1066	100.0
熊本県	2	0.2	無回答	34	
宮崎県	3	0.3	合計	1100	
鹿児島県	3	0.3			
沖縄県	2	0.2			
海外	14	1.3			
小計	1067	100.0			
無回答	33				
合計	1100				

(7) 告知後の居住地移動

Q.HIV 陽性告知を受けて以降、転居しましたか

	n	%
転居した	406	38.1
転居していない	661	61.9
小計	1067	100.0
無回答	33	
合計	1100	

(7-1) 【転居した人に】

Q. 転居した理由は何でしたか（複数回答）

	n	%	「転居した」 406名中 の%
HIV の治療のため	39	3.7	9.6
障害者手帳が取得しづらかったため	19	1.8	4.7
福祉サービスの質や種類のため	23	2.2	5.7
生活の改善のため	83	7.8	20.4
仕事の都合	118	11.1	29.1
HIV のため居づらくなったため	26	2.4	6.4
その他の個人的な事情から	217	20.3	53.4
転居していない	661	61.9	
全体	1067		
無回答（主問）	33		
合計	1100		

38.1%の人がHIV判明後に転居している。転居理由は、個人的な事情と、仕事の都合や生活改善のためが多い。HIVとの関連では、全体の3.7%の人が「HIV治療のため」、2.4%が「HIVで居づらくなった」、2.2%が「福祉サービスの質や種類」、1.8%が「障害者手帳が取得しづらかった」ことを挙げていた。

(8) 告知時の就労の有無

Q.HIV 陽性告知を受けた当時、収入をとまなう仕事をしていましたか
(自営の手伝いや内職も含む)

	n	%
していた (休職中を含む)	901	84.2
していなかった	169	15.8
小計	1070	100.0
無回答	30	
合計	1100	

HIV 告知を受けた当時就労していた人は
84.2% であった。

(8-1-1) 【就労者に】告知時の就労形態

Q.HIV 陽性告知を受けた当時の働き方

	n	%
主に就労	810	76.5
家事などのかたわら就労	12	1.1
通学のかたわら就労	7	0.7
仕事を休んでいた、休職中	61	5.8
就労していなかった	169	16.0
小計	1059	100.0
無回答 (主問)	30	
無回答	11	
合計	1100	

主に就労していた人が全体の 76.5% と多いが、休職中であった人も 5.8%。

(8-2) 【非就労者に】告知時の職業

Q.HIV 陽性の告知を受けた当時の職業は何でしたか

	n	%
専業主婦・主夫	8	0.8
学生	50	4.7
無職	95	8.9
その他	9	0.8
就労していた	901	84.8
小計	1063	100.0
無回答 (主問)	30	
無回答	7	
合計	1100	

HIV 告知を受けた当時、学生だった人は 4.7%、専業主婦・主夫だった人は 0.8%、無職だった人は 8.9%。

(8-1-2) 【就労者に】告知時の雇用形態

Q.HIV 陽性告知を受けた当時の雇用形態
(休職中だった方は休職前)

	n	%
自営業 (個人 / 家族経営)	104	9.8
事業主 (従業員を雇用)	28	2.6
家族従業員	11	1.0
公務員 (常勤)	49	4.6
企業・団体の役員	13	1.2
企業・団体の正社員	441	41.6
契約社員	75	7.1
嘱託職員	12	1.1
パート・アルバイト	113	10.7
派遣社員	30	2.8
内職	1	0.1
その他	14	1.3
就労していなかった	169	15.9
小計	1060	100.0
無回答 (主問)	30	
無回答	10	
合計	1100	

(9) 告知後の離転職

Q.HIV 陽性告知を受けて以降、離転職をしましたか。した方は、仕事をやめた回数を教えてください

	n	%
した	430	40.5
していない	631	59.5
小計	1061	100.0
無回答	39	
合計	1100	

	n	%
1回	202	20.0
2回	91	9.0
3～4回	56	5.6
5回以上	28	2.8
離転職していない	631	62.6
小計	1008	100.0
無回答（主問）	39	
無回答	53	
合計	1100	

HIV 判明後に離職した人は 40.5%。

(9-1) 離職理由

Q. もっとも最近の離職の理由は何でしたか（複数回答）

	n	%	「離転職をした」 427人中 の%
会社の倒産・事業所閉鎖	42	4.0	9.8
人員整理・勧奨退職	41	3.9	9.6
事業不振や先行き不安	40	3.8	9.4
定年・雇用契約の満了	32	3.0	7.5
よりよい条件の仕事を 探すため	125	11.8	29.3
仕事よりも健康や 生活を重視して	79	7.5	18.5
体力的な問題	107	10.1	25.1
健康管理上の都合 (服薬・通院・入院など)	59	5.6	13.8
精神的な問題	114	10.8	26.7
職業訓練や技術習得	15	1.4	3.5
HIV に対する偏見で いづらくなった	23	2.2	5.4
休職可能な期間を越えた 治療が必要であった	15	1.4	3.5
HIV による解雇	8	0.8	1.9
結婚・出産・育児・介護・ 看護のため	12	1.1	2.8
その他	39	3.7	9.1
離転職していない	631	59.6	
全体	1058		
無回答（主問）	39		
無回答	3		
合計	1100		

直近の離職の理由は、「より良い条件の仕事を探すため」「精神的な問題」「体力的な問題」の順。

5. 世帯・生計・制度の利用

(1) 同居者

Q. 現在、あなたが同居している人は誰ですか
(複数回答)

同居世帯の状況	n	%
ひとり暮らし	487	45.4
夫・妻	157	14.6
パートナー・恋人	130	12.1
友人	34	3.2
子	102	9.5
父母	257	24.0
祖父母	20	1.9
きょうだい	69	6.4
その他	12	1.1
全体	1072	
無回答	28	
合計	1100	

45.4%の人は一人で暮らしている。同居者がいる人は、「父母」との同居が24.0%、「夫・妻」が14.6%、「パートナー」が12.1%、「子」が9.5%。

(2) 世帯の家計主

Q. 世帯全体の家計を「主に」支えている人は誰ですか
(年金や生活保護が主な方は受給者)

	n	%
あなたご自身	752	70.6
夫・妻	35	3.3
パートナー・恋人	33	3.1
友人	2	0.2
子	2	0.2
父母	149	14.0
祖父母	1	0.1
きょうだい	12	1.1
その他	2	0.2
あなたと同居者と等分	77	7.2
小計	1065	100.0
無回答	35	
合計	1100	

70.6%の人は世帯全体の家計を主で支えている。

(3) 世帯の年収

(3-a) 世帯の収入源

Q. 世帯全体の収入源（複数回答）

	n	%
自分の就労収入	773	76.1
同居者の就労収入	247	24.3
仕送り・援助	42	4.1
事業・内職・農業収入	30	3.0
家賃・利子・配当金	45	4.4
預貯金の取りくずし	103	10.1
障害年金	59	5.8
その他の年金・恩給	131	12.9
失業給付	14	1.4
傷病手当	16	1.6
生活保護	83	8.2
薬害被害の健康管理費用	21	2.1
薬害被害の発症者健康管理手当	12	1.2
その他	19	1.9
全体	1016	
無回答	84	
合計	1100	

自分の就労収入が76.1%と最も多い。預貯金のとりくずしも10.1%。

(3-b) もっとも主な収入源

Q. 世帯全体のもっとも「主な」収入源（1つ）

	n	%
自分の就労収入	648	63.5
同居者の就労収入	113	11.1
仕送り・援助	16	1.6
事業・内職・農業収入	16	1.6
家賃・利子・配当金	11	1.1
預貯金の取りくずし	27	2.6
障害年金	12	1.2
その他の年金・恩給	63	6.2
失業給付	5	0.5
傷病手当	3	0.3
生活保護	81	7.9
薬害被害の健康管理費用	1	0.1
薬害被害の発症者健康管理手当	1	0.1
その他	10	1.0
自分と同居者の就労収入	13	1.3
小計	1020	100.0
無回答	80	
合計	1100	

63.5%の人は自身の就労収入が世帯全体の主な収入源としている。その他年金6.2%には親の年金も含む。

(4) 暮らし向き

Q. 現在の暮らしの状況を総合的にみてどう感じていますか

	n	%
大変苦しい	143	13.4
やや苦しい	327	30.6
ふつう	461	43.1
ややゆとりがある	111	10.4
大変ゆとりがある	28	2.6
小計	1070	100.0
無回答	30	
合計	1100	

暮らし向きの評価を、ゆとりがある（「大変」「やや」）とした人は 13.0%、苦しい（「大変」「やや」）とした人は 43.9%。

(5) 健康保険

Q. HIV 治療で利用している健康保険はどれですか

	n	%
組合保険	331	31.6
協会けんぽ	125	11.9
共済組合	50	4.8
その他被用者保険	39	3.7
国民健康保険	411	39.2
家族の保険の被扶養者	17	1.6
後期高齢者医療制度	19	1.8
加入していない	57	5.4
小計	1049	100.0
無回答	51	
合計	1100	

国民健康保険が 39.2%、組合保険が 31.6%。加入していない人のほとんどは生活保護。

(6) 健康診断

Q. この 1 年間、健康保険組合や市区町村、職場の健康診断を受けましたか（診察や治療のための検査は除く）

	n	%
受けた	520	48.7
受けていない	548	51.3
小計	1068	100.0
無回答	32	
合計	1100	

51.3% の人は地域や職場の健康診断を受けていない。

(7) 障害者手帳

Q. 障害者手帳を取得していますか。取得している人は等級も教えて下さい（複数回答）

	n	%
免疫機能障害 / HIV	978	92.1
肢体不自由	38	3.6
じん臓機能	4	0.4
精神障害	11	1.0
知的障害	1	0.1
その他	10	0.9
いずれも取得していない	59	5.6
全体	1062	
無回答	38	
合計	1100	

92.1%は免疫機能障害で障害認定を受けている。受けていない人も5.6%。等級は、免疫機能障害では2級が42.3%、3級が30.3%と多い。

障害者手帳：等級

		1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	小計	無回答 (主問)	非該当	無回答 (等級)	合計
免疫機能障害 / HIV	n	128	405	290	134				957	39	84	20	1100
	%	13.4	42.3	30.3	14.0				100.0				
肢体不自由	n	4	9	4	12	4	3		36	38	1024	2	1100
	%	11.1	25.0	11.1	33.3	11.1	8.3		100.0				
じん臓機能	n	3							3	38	1058	1	1100
	%	100.0							100.0				
精神障害	n	1	7	3					11	38	1051		1100
	%	9.1	63.6	27.3					100.0				
知的障害	n			1					1	38	1061		1100
	%			100.0					100.0				
その他	n	3	3	1	2			1	10	38	1052		1100
	%	30.0	30.0	10.0	20.0			10.0	100.0				

(8) 障害者雇用制度での就労の有無

Q. 障害者雇用制度で就労したことがありますか

	n	%
かつてこの制度で就労していた	23	2.2
現在この制度で就労	43	4.0
ない	906	84.8
制度を知らない	97	9.1
小計	1069	100.0
無回答	31	
合計	1100	

障害者雇用制度で現在就労している人は4.0%、過去に就労していた人は2.2%。

(9) 障害者雇用制度の利用意向

Q. 今後、障害者雇用制度を利用する意向がありますか

	n	%
利用したい	136	12.8
利用してみてもよい	364	34.4
利用するつもりなし	559	52.8
小計	1059	100.0
無回答	41	
合計	1100	

今後、障害者雇用制度の利用意向がある人（利用したい+利用してみてもよい）は 47.2%。

(10) 障害者雇用制度の評価

Q. 今障害者雇用制度で就労することについて、次のようなことを感じますか（複数回答）

	n	%
体調に合わせて働ける	335	32.8
昇進や仕事内容が制限される	281	27.5
通院がしやすくなる	349	34.2
収入が下がる	379	37.2
病名をかくす精神的負担が軽くなる	250	24.5
職場で誰に病名が明らかになるか不安	585	57.4
障害者として特別あつかいされたくない	326	32.0
とくに何も感じない	134	13.1
全体	1020	
無回答	80	
合計	1100	

「通院がしやすくなる」「体調に合わせて働ける」等メリットを感じる一方、「収入が下がる」「昇進や仕事内容が制限される」等デメリットも感じている。とくに「職場で誰に病名が明らかになるか不安」を挙げた人が 57.4% と最も多かった。

6. ふだんの生活と人間関係

(1) 地域活動・社会活動・陽性者ネットワーク

Q. この1年くらいの間、次のような活動をしましたか（複数回答）

	n	%
HIV 陽性者の会やグループ活動	70	6.4
国内旅行（宿泊あり）	622	57.1
ボランティア活動	85	7.8
海外旅行	234	21.5
スポーツ活動	386	35.4
インターネット・メール・SNS	709	65.0
趣味・娯楽活動	593	54.4
HIV 陽性者とのインターネット・メール・SNS	169	15.5
学習・研究活動	199	18.3
友人との外食	815	74.8
技能習得や資格取得の活動	163	15.0
いずれの活動もしていない	92	8.4
全体	1090	
無回答	10	
合計	1100	

「友人との外食」が 74.8% と最も多い。「インターネット・メール・SNS」は 65.0%、「HIV 陽性者の会やグループ活動」は 6.4%。提示した項目のいずれもしていない人は 8.4%。

(2) 周囲の人たちへの病名開示

Q. 次の人たちにあなたが HIV 陽性であることを知らせていますか
 知らせている場合、おおよそ何人くらいに知らせていますか

関係性別、病名開示

		知らせている	知らせていない	そもそも、その関係の人がいない	関係者がいるか不明だが、知らせていない	小計	無回答	合計
家族・パートナー	親	n 363 % 33.3	453 41.5	128 11.7	147 13.5	1091 100.0	9	1100
	きょうだい	n 311 % 28.6	522 48.0	107 9.8	148 13.6	1088 100.0	12	1100
	夫・妻	n 146 % 13.5	100 9.3	658 61.0	174 16.1	1078 100.0	22	1100
	パートナー	n 303 % 28.1	104 9.7	478 44.4	192 17.8	1077 100.0	23	1100
	元の夫・妻・パートナー	n 205 % 19.1	153 14.2	502 46.7	214 19.9	1074 100.0	26	1100
	子ども	n 44 % 4.1	151 14.0	702 65.1	182 16.9	1079 100.0	21	1100
	その他の親戚	n 94 % 8.6	513 47.1	265 24.3	218 20.0	1090 100.0	10	1100
	友人・知人	面識のある、HIV 陽性者	n 414 % 37.9	169 15.5	386 35.4	122 11.2	1091 100.0	9
面識のある、その他知人		n 457 % 41.9	405 37.1	129 11.8	100 9.2	1091 100.0	9	1100
ネット上の、HIV 陽性者		n 113 % 10.4	230 21.1	589 54.0	159 14.6	1091 100.0	9	1100
ネット上の、その他知人		n 31 % 2.8	390 35.7	506 46.4	164 15.0	1091 100.0	9	1100
仕事関係	同僚・部下	n 81 % 7.4	623 57.1	229 21.0	158 14.5	1091 100.0	9	1100
	直属の上司	n 117 % 10.7	564 51.7	253 23.2	157 14.4	1091 100.0	9	1100
	雇用主・役員などの管理職	n 91 % 8.3	588 53.9	251 23.0	161 14.8	1091 100.0	9	1100
	人事担当	n 63 % 5.8	589 54.0	279 25.6	160 14.7	1091 100.0	9	1100
	産業医・社内診療所医師	n 38 % 3.5	545 50.0	346 31.7	162 14.8	1091 100.0	9	1100
その他	n 24 % 2.8	349 40.3	335 38.7	158 18.2	866 100.0	234	1100	

この病名開示の質問は、「知らせている」「知らせていない」「そもそも、その関係の人がいない」の3択であったが、回答状況から判断して、その関係性の人がいるか否かは分からないが、病名を伝えている相手はいないことが明らかでない場合、「関係者がいるか不明だが、知らせていない」として再集計した。例えば、親が生きているか否かは分からないが、いずれにしても病名は伝えていない場合がこれに該当する。

関係性別、病名を知らせている人数

		1人	2人	3~4人	5~9人	10~29人	30人以上	小計	非該当	無回答(主問)	無回答(人数)	合計
家族・パートナー	親	n 142 % 39.3	215 59.6	4 1.1				361 100.0	728	9	2	1100
	きょうだい	n 204 % 66.0	73 23.6	27 8.7	5 1.6			309 100.0	777	12	2	1100
	夫・妻	n 145 % 100.0						145 100.0	932	22	1	1100
	パートナー	n 293 % 97.3	5 1.7	3 1.0				301 100.0	774	23	2	1100
	元の夫・妻・パートナー	n 123 % 60.6	40 19.7	32 15.8	8 3.9			203 100.0	869	26	2	1100
	子ども	n 21 % 47.7	18 40.9	4 9.1	1 2.3			44 100.0	1035	21		1100
	その他の親戚	n 42 % 44.7	23 24.5	10 10.6	12 12.8	7 7.4		94 100.0	995	10	1	1100
友人・知人	面識のある、HIV陽性者	n 142 % 35.3	77 19.2	60 14.9	54 13.4	56 13.9	13 3.2	402 100.0	677	9	12	1100
	面識のある、その他知人	n 122 % 27.1	100 22.2	109 24.2	69 15.3	43 9.6	7 1.6	450 100.0	634	9	7	1100
	ネット上の、HIV陽性者	n 28 % 27.2	13 12.6	12 11.7	17 16.5	23 22.3	10 9.7	103 100.0	978	9	10	1100
	ネット上の、その他知人	n 6 % 23.1	3 11.5	2 7.7	4 15.4	8 30.8	3 11.5	26 100.0	1060	9	5	1100
仕事関係	同僚・部下	n 35 % 44.3	11 13.9	20 25.3	6 7.6	4 5.1	3 3.8	79 100.0	1010	9	2	1100
	直属の上司	n 75 % 64.7	26 22.4	11 9.5	3 2.6	1 0.9		116 100.0	973	9	2	1100
	雇用主・役員等の管理職	n 44 % 50.6	23 26.4	10 11.5	9 10.3	1 1.1		87 100.0	1000	9	4	1100
	人事担当者	n 39 % 63.9	15 24.6	3 4.9	4 6.6			61 100.0	1027	9	3	1100
	産業医・社内診療所医師	n 27 % 71.1	8 21.1	2 5.3	1 2.6			38 100.0	1053	9		1100
その他	n 12 % 50.0	3 12.5	4 16.7	2 8.3	2 8.3	1 4.2	24 100.0	842	234		1100	

(3) HIV 開示しての就学・就労の相談先

Q.HIV 陽性であることを伝えて、就学や就労、就職について相談した先を教えてください
(複数回答)

	n	%
友人	194	18.6
インターネット上の友人	26	2.5
パートナー・家族	218	20.9
医師	252	24.1
看護師・コーディネーター	237	22.7
医療相談員・ソーシャルワーカー	174	16.7
心理カウンセラー	104	10.0
保健所・保健センター	14	1.3
福祉事務所・市町村福祉担当	42	4.0
ハローワーク・職安	108	10.3
障害者職業センター	13	1.2
障害者対象の就職あっせん会社	26	2.5
ボランティア・患者支援団体	31	3.0
その他	10	1.0
誰にも相談していない	461	44.1
全体	1045	
無回答	55	
合計	1100	

「医師」「看護師・コーディネータ」「パートナー・家族」の順だが、誰にも相談していない人が44.1%と最も多い。
ハローワークは10.3%、障害者職業センターは1.2%。

(4) 主治医からの就労アドバイス

Q.HIV の主治医からは、あなたが働くことについて何とされていますか

	n	%
とくに制限なく、働くことをすすめられている	545	50.6
時間や仕事内容を制限して働くように言われている	73	6.8
働かない方がよいと言われている	9	0.8
とくに何も言われていない	451	41.8
小計	1078	100.0
無回答	22	
合計	1100	

50.6%の人は「とくに制限なく働くことを勧められている」としている。「時間や仕事内容を制限するよう言われている」は6.8%、「働かない方がよい」は0.8%。

(5) 将来の就労意向

Q. 将来の生活で、あなたは働くことについてどのようにお考えですか

	n	%
とくに制限しないで、働いていきたい	631	58.4
健康状態に合わせた制限や調整をして、働いていきたい	375	34.7
できれば働きたくない・働くつもりはない	75	6.9
小計	1081	100.0
無回答	19	
合計	1100	

58.4%の人は「制限なく働いていきたい」としている。34.7%が健康状態に合わせた制限や調整をして働きたいとしている。

(6) 将来の生活設計

Q. ご自身の将来の生活設計について、何年くらい先のことまで考えていますか

	n	%
1年未満	96	8.8
1年～5年未満	302	27.7
5年～10年未満	241	22.1
10年～20年未満	156	14.3
20年以上先	110	10.1
考えたことがない	184	16.9
小計	1089	100.0
無回答	11	
合計	1100	

「1年以上5年未満」という直近の将来までのこととした人が27.7%と最も多いが、10年、20年先の長期的な生活設計を考えている人も少なくない。

(7) 病気による制約感

Q. 病気や障害をもって生活する上で、ふだん制約を受けたり、自分で制約していると感じることがありますか

		かなり 制約あり	少し 制約あり	ほとんど 制約はない	まったく 制約はない	小計	無回答	合計
生活習慣（食事・喫煙・飲酒など）	n	74	331	265	407	1077	23	1100
	%	6.9	30.7	24.6	37.8	100.0		
外出や行動の範囲	n	50	199	296	527	1072	28	1100
	%	4.7	18.6	27.6	49.2	100.0		
現在の働き方や学校生活	n	71	198	287	477	1033	67	1100
	%	6.9	19.2	27.8	46.2	100.0		
将来の働き方や進路、職業選択	n	140	283	246	376	1045	55	1100
	%	13.4	27.1	23.5	36.0	100.0		
家族や親戚との関係	n	131	228	277	428	1064	36	1100
	%	12.3	21.4	26.0	40.2	100.0		
友人との関係	n	90	215	324	433	1062	38	1100
	%	8.5	20.2	30.5	40.8	100.0		
恋人との関係や出会い	n	355	266	154	245	1020	80	1100
	%	34.8	26.1	15.1	24.0	100.0		
性生活	n	563	288	84	116	1051	49	1100
	%	53.6	27.4	8.0	11.0	100.0		
結婚すること	n	545	80	60	275	960	140	1100
	%	56.8	8.3	6.3	28.6	100.0		
子を持つこと	n	620	64	35	246	965	135	1100
	%	64.2	6.6	3.6	25.5	100.0		

最も制約感（かなり＋少し制約あり）が強かったのは性生活 81.0%、
次いで子を持つこと 70.9%、結婚 65.1%、恋人との関係や出会い 60.9%、
将来の働き方や進路・職業選択 40.5%、生活習慣 37.6%。
家族や親戚との関係も 33.7% が制約ありとしている
全体に、日々の生活よりも、人間関係や人生設計に関わることへの制約感の方が高い。

(8) HIV 告知以降の生活意識変化

Q.HIV 陽性とわかって以降、あなたの生活やお気持ちにはどのような変化がありましたか

		そう思う	まあ そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	小計	無回答	合計
日々の生活を 大切にできるようになった	n	285	387	253	155	1080	20	1100
	%	26.4	35.8	23.4	14.4	100.0		
人間関係が広がった	n	70	105	398	501	1074	26	1100
	%	6.5	9.8	37.1	46.6	100.0		
精神的に強くなった	n	172	245	336	324	1077	23	1100
	%	16.0	22.7	31.2	30.1	100.0		
健康と生活のバランスを 意識するようになった	n	281	460	209	140	1090	10	1100
	%	25.8	42.2	19.2	12.8	100.0		

HIV 陽性とわかって以降の変化として、「健康と生活のバランスを意識するようになった」と思う（そう思う＋まあそう思う）人が 68.0%、「日々の生活を大切にできるようになった」が 62.2%、「精神的に強くなった」は 38.7%、「人間関係が広がった」とした人は 16.3%。

(9) HIV による差別回避行動

Q.HIV 陽性とわかって以降この数年内の生活で、次のことをしたり感じたりしたことがありますか

		ある	ない	小計	無回答	合計
HIV が理由で不本意に 仕事をやめた	n	101	974	1075	25	1100
	%	9.4	90.6	100.0		
知人に会うことのない 病院を受診した	n	205	871	1076	24	1100
	%	19.1	80.9	100.0		
すすめられたが、 障害者手帳の申請をしなかった	n	39	1029	1068	32	1100
	%	3.7	96.3	100.0		
病名を隠すような 言い訳を考えた	n	779	300	1079	21	1100
	%	72.2	27.8	100.0		
とくに病気をもっていない かのようにふるまった	n	781	301	1082	18	1100
	%	72.2	27.8	100.0		

「病名を隠すような言い訳を考えた」「病気をもっていないようにふるまった」が 72.2% と多い。「知人に会うことのない病院を受診した」人も 19.1%、「HIV が理由で不本意に仕事をやめた」人も 9.4%

(10) 差別経験

Q. 最近の生活で、HIV 陽性者であることで不利な状態におかれたり、これは差別的な対応や待遇ではないかと感じた経験がありますか

	n	%
よくある	39	3.6
時々ある	126	11.7
あまりない	466	43.1
まったくない	450	41.6
小計	1081	100.0
無回答	19	
合計	1100	

「ある」（よく＋時々）は、15.3%。職場や地域での病名開示と合わせて検討する必要がある。

7. 就労について

(1) 就労の有無

Q. 先月末の1週間に、収入をとまなう就労をしましたか（自営の手伝いや内職も含む）

	n	%
主に就労	793	72.3
家事などのかたわら就労	23	2.1
通学のかたわら就労	4	0.4
休んでいたか休職中	21	1.9
就労していない	256	23.3
小計	1097	100.0
無回答	3	
合計	1100	

「主に就労」している人は72.3%、「就労していない」人は23.3%。

8. 就労の状況

(1) 1ヶ月の就労日数

Q. 先月1ヶ月間に就労した日数を教えてください（仕事を休んでいた人は0）

	n	%
休職中	16	1.9
20日未満	128	15.5
20～23日	483	58.6
24～27日	164	19.9
28日以上	33	4.0
小計	824	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	17	
合計	1100	

就労している人の82.5%は月20日以上働いている。

(2) 1週間の就労日数と時間

Q. 先月末の1週間に就労した日数と時間数を教えてください（仕事を休んでいた人は0）

	n	%
0日	20	2.4
1日	4	0.5
2日	8	1.0
3日	23	2.8
4日	44	5.3
5日	512	62.1
6日	179	21.7
7日	34	4.1
小計	824	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	17	
合計	1100	

就労している人の88.0%は週5日以上働いている。

	n	%
休職中	21	2.8
週1～14時間	14	1.9
週15～29時間	52	7.0
週30～34時間	46	6.2
週35～42時間	286	38.3
週43～48時間	115	15.4
週49～59時間	119	15.9
週60時間以上	94	12.6
小計	747	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答	94	
無回答（主問）	3	
合計	1100	

就労している人の82.2%は週35時間以上働いている。週60時間以上の長時間労働者も12.6%。

(3) 健康問題による休暇・休業

Q. この1年間に、通院や入院、健康上の理由で仕事を休んだ日数を教えてください

有給休暇

	n	%
いいえ	504	62.2
はい	306	37.8
小計	810	100.0
非該当 (非就労)	256	
無回答 (主問)	3	
無回答	31	
合計	1100	

健康管理や健康状態を理由に有給休暇をとった人は、就労者のうち37.8%。取得者のうち78.0%は10日以下。

欠勤

	n	%
いいえ	669	82.6
はい	141	17.4
小計	810	100.0
非該当 (非就労)	256	
無回答 (主問)	3	
無回答	31	
合計	1100	

健康管理や健康状態を理由に欠勤した人は、就労者のうち17.4%。欠勤した人のうち77.5%は10日以下。

傷病休暇

	n	%
いいえ	756	93.3
はい	54	6.7
小計	810	100.0
非該当 (非就労)	256	
無回答 (主問)	3	
無回答	31	
合計	1100	

健康管理や健康状態を理由に傷病休暇をとった人は、就労者のうち6.7%。取得者のうち54.9%は10日以下。21日以上は33.3%。

有給休暇日数

	n	%
1～5日	141	46.2
6～10日	97	31.8
11～15日	36	11.8
16～20日	22	7.2
21日以上	9	3.0
小計	305	100.0
非該当 (非就労)	256	
非該当 (Q7_3)	504	
無回答 (主問)	3	
無回答 (Q7_3)	31	
無回答	1	
合計	1100	

欠勤日数

	n	%
1～5日	67	48.6
6～10日	40	29.0
11～15日	8	5.8
16～20日	3	2.2
21日以上	20	14.5
小計	138	100.0
非該当 (非就労)	256	
非該当 (Q7_3)	669	
無回答 (主問)	3	
無回答 (Q7_3)	31	
無回答	3	
合計	1100	

傷病休暇日数

	n	%
1～5日	18	35.3
6～10日	10	19.6
11～15日	4	7.8
16～20日	2	3.9
21日以上	17	33.3
小計	51	100.0
非該当 (非就労)	256	
非該当 (Q7_3)	756	
無回答 (主問)	3	
無回答 (Q7_3)	31	
無回答	3	
合計	1100	

有給制度がない		
	n	%
いいえ	737	91.0
はい	73	9.0
小計	810	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	31	
合計	1100	

有給休暇制度がない人も9.0%。

通院や健康上の理由では休んでいない		
	n	%
いいえ	483	59.6
はい	327	40.4
小計	810	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	31	
合計	1100	

就労者の40.4%は、この1年間に通入院や健康上の理由で仕事を1日も休んでいない。

(4) 就労収入

Q. この1年間の、あなたのすべての仕事からの収入（税込）は、どのくらいでしたか

	n	%
なし（0円）	7	0.9
100万円未満	42	5.1
100万円～	124	15.1
200万円～	150	18.2
300万円～	162	19.7
400万円～	111	13.5
500万円～	120	14.6
700万円～	62	7.5
1000万円～	33	4.0
1500万円以上	12	1.5
小計	823	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	18	
合計	1100	

就労している人の、就労による年収は300万円以上400万円未満が19.7%、200万円以上300万円未満が18.2%と多い。

(5) 雇用形態

Q. あなたの雇用形態はどれですか
（休職中の方は復職前のこと）

	n	%
自営業（個人／家族経営）	117	14.0
事業主（従業員を雇用）	24	2.9
家族従業員	9	1.1
公務員（常勤）	40	4.8
企業・団体の役員	22	2.6
企業・団体の正社員	393	47.1
契約社員	67	8.0
嘱託職員	14	1.7
パート・アルバイト	111	13.3
派遣社員	26	3.1
内職	1	0.1
その他	10	1.2
小計	834	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	7	
合計	1100	

企業の正社員が47.1%と多く、自営業14.0%、パート・アルバイトが13.3%。

(6) 職種

Q. あなたの職種は何ですか

	n	%
専門・技術職	269	32.3
管理職	83	10.0
事務職	144	17.3
販売職	58	7.0
サービス職	194	23.3
保安職	4	0.5
農林漁業	4	0.5
生産工程	27	3.2
輸送・機械運転	10	1.2
建設・採掘	6	0.7
運搬・清掃・包装等	20	2.4
その他	14	1.7
小計	833	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	8	
合計	1100	

専門技術職32.3%、サービス職23.3%、事務職17.3%など、ホワイトカラーが多く、労務作業的な職種が少ない。

(7) 勤務先の企業規模

Q. 勤務先（会社や団体全体、自営業）の従業員数は何人くらいですか

	n	%
1人（あなたのみ）	61	7.3
2～4人	82	9.9
5～9人	67	8.1
10～29人	97	11.7
30～99人	111	13.4
100～499人	154	18.5
500～999人	69	8.3
1000人以上	190	22.9
小計	831	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	10	
合計	1100	

勤務先の従業員規模は、1人から1000人以上の大規模企業まで幅広い。

(8) 勤務先の業種

Q. 勤務先（会社や団体全体、自営業）の業種は何ですか

	n	%
農・林・漁	8	1.0
建設	30	3.6
製造	86	10.4
電気・ガス・水道	8	1.0
情報通信	60	7.2
運輸・郵便	47	5.7
卸売・小売	100	12.1
金融・保険	15	1.8
不動産・物品賃貸	16	1.9
宿泊・飲食	68	8.2
医療・福祉	116	14.0
生活サービス・娯楽	50	6.0
学術研究・専門・技術	47	5.7
教育・学習支援	31	3.7
その他サービス	108	13.0
公務	23	2.8
その他	16	1.9
小計	829	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	12	
合計	1100	

(9) 職場でプライバシー漏洩が不安な事項

Q. 伝えていない人にまで、HIVを知られる不安を感じることはありますか（複数回答）

漏洩不安	n	%
医療費明細書の通知	363	44.5
医療費のレセプト（医療機関からの請求書）	252	30.9
社内診療所・産業医	120	14.7
付加給付金の還付	83	10.2
健康保険組合から会社への情報	387	47.5
障害者手帳を利用した際の医療費助成	292	35.8
年金や税金控除などの制度利用	246	30.2
HIV陽性を知っている社員の情報管理	111	13.6
健康診断	281	34.5
どれも不安を感じない	168	20.6
全体	815	
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	26	
合計	1100	

職場で病名漏洩の不安を感じるのは、「健康保険組合から会社への情報」47.5%、「医療費明細書の通知」44.5%が多い。「健康診断」も34.5%。示した9項目いずれも不安を感じない人は20.6%で、79.4%の人がいずれかに不安を感じている。

勤務先の業種は多様であるが、最も多いのは「医療・福祉」14.0%、次いで「卸売・小売り」12.1%、「宿泊・飲食」8.2%など、全体にサービス産業が多い。

(10) 仕事・職場の評価

Q. 主な仕事での働き方や職場について、次のことをどのくらい感じますか

		とても 感じる	少し 感じる	あまり 感じない	まったく 感じない	小計	無回答 (主問)	非該当 (非就労)	無回答	合計
身体的、体力的なきつさ	n	108	307	259	149	823	3	256	18	1100
	%	13.1	37.3	31.5	18.1	100.0				
服薬のしにくさ	n	42	190	295	296	823	3	256	18	1100
	%	5.1	23.1	35.8	36.0	100.0				
通院のしにくさ	n	52	219	317	237	825	3	256	16	1100
	%	6.3	26.5	38.4	28.7	100.0				
職場の人間関係の良さ	n	127	222	298	174	821	3	256	20	1100
	%	15.5	27.0	36.3	21.2	100.0				
仕事のやりがいや面白さ	n	164	297	232	127	820	3	256	21	1100
	%	20.0	36.2	28.3	15.5	100.0				
全体的な働きやすさ	n	153	332	224	107	816	3	256	25	1100
	%	18.8	40.7	27.5	13.1	100.0				
できればやめて、 別の仕事に変わりたい	n	135	161	231	291	818	3	256	23	1100
	%	16.5	19.7	28.2	35.6	100.0				
HIV 感染症に対する 無理解や偏見	n	141	204	259	212	816	3	256	25	1100
	%	17.3	25.0	31.7	26.0	100.0				
性行動や性的指向 (同性愛など) に対する偏見	n	201	214	220	182	817	3	256	24	1100
	%	24.6	26.2	26.9	22.3	100.0				
病名を隠すことの 精神的負担	n	225	297	177	127	826	3	256	15	1100
	%	27.2	36.0	21.4	15.4	100.0				
知らない間に病名が 知られる不安	n	259	299	167	100	825	3	256	16	1100
	%	31.4	36.2	20.2	12.1	100.0				

職場の長所、短所について 11 項目を挙げて尋ねたところ、
「知らない間に病名が知られる不安」「病名を隠すことの精神的負担」を
感じる人が多かった。

9. 非就労の状況

(1) 非就労の理由

Q. 就労していない理由を教えてください
(複数回答)

	n	%
学生だから	6	2.4
家事や社会活動など 他にすることあるから	20	7.9
資格取得や進学準備のため	11	4.4
経済的に困らないから	27	10.7
定年退職したから	24	9.5
年齢が高いから	77	30.6
HIV 感染症による体調不良のため	53	21.0
精神的な問題のため	54	21.4
就職先が決まらないから	75	29.8
仕事をする自信がないから	67	26.6
その他	49	19.4
全体	252	
非該当 (就労)	841	
無回答 (主問)	3	
無回答	4	
合計	1100	

非就労の理由は、「年齢が高い」30.6%、「就職先が決まらない」29.8%、「仕事をする自信がない」26.6% など。

「HIV 感染症による体調不良」は21.0%。

「その他」19.4% で記載があるもののうち約半数は心身の健康問題。

(2) 就労準備状況

Q. 現在、仕事探しや自営業の準備をしていますか

	n	%
仕事を探している	94	37.8
自営業の準備をしている	17	6.8
何もしていない	138	55.4
小計	249	100.0
非該当 (就労)	841	
無回答 (主問)	3	
無回答	7	
合計	1100	

非就労者全体の44.6% (60歳未満の非就労者では57.3%) が、就職や自営など就労の準備をしている。

(3) 就労希望

Q. 現在、就労する希望がありますか

	n	%
ある	160	62.5
ない	96	37.5
小計	256	100.0
非該当 (就労)	841	
無回答 (主問)	3	
合計	1100	

非就労者全体の62.5% (60歳未満の非就労者では78.2%) が就労を希望している。

(3-1) 就労希望者の非就労期間

Q. 【就労希望者に】就労を希望しているにもかかわらず、就労していない期間はどれくらいになりますか

	n	%
1ヶ月未満	10	6.6
1ヶ月～	7	4.6
3ヶ月～	19	12.5
6ヶ月～	29	19.1
1年～	40	26.3
3年～	24	15.8
5年～	17	11.2
10年以上	6	3.9
小計	152	100.0
非該当 (就労)	841	
非該当 (Q8_3)	96	
無回答 (主問)	3	
無回答 (Q8_3)	2	
無回答	6	
合計	1100	

非就労者のうち就労希望のある人の非就労期間は、「1～3年未満」が26.3%と最も多かった。42.8%は1年未満であるが、一方で3年以上に及んでいる人も30.9%。

(4) 就労や就職活動の問題点

Q. 現在、就労や就職活動について、どのような問題点を感じていますか（複数回答）

	n	%
年齢が合わない	106	46.3
収入が合わない	32	14.0
仕事内容が合わない	56	24.5
自分に合う仕事かわからない	73	31.9
家事・育児との調整がとれない	14	6.1
通院との調整がとれない	50	21.8
体力的に働けるか不安	104	45.4
精神的に働けるか不安	81	35.4
職場でプライバシーが もれないか不安	60	26.2
相談先でプライバシーが もれないか不安	43	18.8
HIV を伝えて 就労相談できる先がない	50	21.8
病気のことをうまく説明できない	53	23.1
その他	11	4.8
とくに問題は感じない	25	10.9
全体	229	
非該当（就労）	841	
無回答（主問）	3	
無回答	27	
合計	1100	

非就労者が感じている問題点は、「年齢が合わない」46.3%、「仕事内容が合わない」24.5%といった労働条件の問題と、「体力的に不安」45.4%、「精神的に不安」35.4%、「通院との調整がとれない」21.8%といった健康問題を挙げた人が多かった。職場26.2%と相談先18.8%での「プライバシー漏洩不安」を挙げた人も多く、「病気のことをうまく説明できない」23.1%、「HIV を伝えて就労相談できる先がない」21.8%など、病名を伝えるか否か、伝える場合どう伝えるか、伝えない場合どう働くかといった、職場のプライバシーと健康の問題を挙げた人も多かった。

10. 日本のエイズ対策への評価

(1) 行政、医療、社会のエイズ対策評価

Q. 日本の HIV/ エイズ関連の対策について、どのように感じていますか

		整っている	まあ 整っている	あまり 整っていない	整って いない	小計	無回答	合計
陽性者への治療や医療体制	n	472	515	78	19	1084	16	1100
	%	43.5	47.5	7.2	1.8	100.0		
陽性者の就労や職場対策	n	56	205	546	217	1024	76	1100
	%	5.5	20.0	53.3	21.2	100.0		
陽性者が子どもをもつ 選択に対する環境	n	26	144	487	309	966	134	1100
	%	2.7	14.9	50.4	32.0	100.0		
HIV/ エイズ対策に、 陽性者の意見を反映させる体制	n	41	249	514	205	1009	91	1100
	%	4.1	24.7	50.9	20.3	100.0		
HIV 感染予防の教育や啓発	n	63	310	463	211	1047	53	1100
	%	6.0	29.6	44.2	20.2	100.0		
社会での HIV/ エイズへの 理解や偏見の解消	n	18	90	447	495	1050	50	1100
	%	1.7	8.6	42.6	47.1	100.0		
公的機関の職員の HIV/ エイズへの 理解や偏見の解消	n	28	243	454	315	1040	60	1100
	%	2.7	23.4	43.7	30.3	100.0		
学校での性的マイノリティ (同性愛など) への理解や偏見の解消	n	18	66	414	514	1012	88	1100
	%	1.8	6.5	40.9	50.8	100.0		
社会での性的マイノリティ (同性愛など) への理解や偏見の解消	n	19	68	432	516	1035	65	1100
	%	1.8	6.6	41.7	49.9	100.0		

医療への評価は高いが、一方で、学校や公的機関などでのエイズやマイノリティへの偏見対策への評価が極めて低く、9割の人が整っていない（「あまり」「整っていない」）としている。

陽性者からみて「感染予防の教育や啓発」が整っていないとしている人が64.4%。

11. 薬物について

(1) 薬物使用経験の有無

Q. これまでに、ドラッグや薬物を使ったことがありますか

	N	%
ある	598	55.1
なし	487	44.9
小計	1085	100.0
無回答	15	
合計	1100	

55.1%の人がこれまでに何らかの薬物・ドラッグを使用した経験がある。

(1-1) 種類別薬物使用経験

Q. 【使ったことがある方に】 次のドラッグや薬物を、
この1年間または過去に使ったご経験があるか教えてください

	n	いずれかの薬物使用経験あり			いずれの薬物も使用経験なし	小計	無回答(主問)	無回答	合計
		この1年に使った	過去に使ったことがある	該当薬物は使っていない					
脱法ドラッグ (ハーブ・リキッド・ パウダー・アロマ・ソルト)	n %a %b	52 4.8 8.7	135 12.5 22.7	409 37.8 68.6	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100
ぼっき薬・ED薬 (パイアグラ・シアリス・ 威哥王・三便宝)	n %a %b	157 14.5 26.3	193 17.8 32.4	246 22.7 41.3	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100
5MeO-DIPT (ゴメオ・フォクシー)	n %a %b	5 0.5 0.8	272 25.1 45.6	319 29.5 53.5	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100
ラッシュ (亜硝酸アミル系・ ポッパー・RUSH)	n %a %b	108 10.0 18.1	446 41.2 74.8	42 3.9 7.0	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100
ガス (エアダスター・ライターガス)	n %a %b	9 0.8 1.5	99 9.1 16.6	488 45.1 81.9	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100
シンナー (有機溶剤・ボンド・ トルエン・エーテル)	n %a %b	1 0.1 0.2	27 2.5 4.5	568 52.4 95.3	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100
大麻 (マリファナ・ハシッシ・ハッパ)	n %a %b	4 0.4 0.7	98 9.0 16.4	494 45.6 82.9	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100
覚せい剤 (シャブ・エス・スピード・ ヒロポン)	n %a %b	25 2.3 4.2	95 8.8 15.9	476 44.0 79.9	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100
MDMA (エクスタシー・X・バツ・アダム)	n %a %b	4 0.4 0.7	57 5.3 9.6	535 49.4 89.8	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100
ヘロイン (モルヒネ・けし)	n %a %b	0 0.0 0.0	6 0.6 1.0	590 54.5 99.0	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100
コカイン (クラック・コーク・ロック)	n %a %b	1 0.1 0.2	22 2.0 3.7	573 52.9 96.1	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100
その他あれば教えてください	n %a %b	2 0.2 0.3	6 0.6 1.0	588 54.3 98.7	487 45.0 100.0	1083 100.0 100.0	15	2	1100

注) %a は、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合 注) %b は、何らかの薬物を使用した経験のある人のうちの割合

使用経験率(この1年使用+過去使用)は、全体のうちラッシュ 51.2%、ED薬 32.3%、ゴメオ 25.6%、脱法ドラッグ 17.3%、覚せい剤 11.1%、ガス 10.0%、大麻 9.4%、MDMA 5.6%、シンナー 2.6%の順。コカイン 2.1%やヘロイン 0.6%は少ない。

この1年間の使用経験率(%a)は、ED薬 14.5%、ラッシュ 10.0%、脱法ドラッグ 4.8%、覚せい剤 2.3%。その他の薬物は1%未満とわずか。薬物使用経験がある人のうち、各薬物の使用率(%b)をみると、ラッシュが93.0%と高率で、ED薬 58.7%、ゴメオ 46.5%、脱法ドラッグ 31.4%、覚せい剤 20.1%など。

注射器・針を使った薬物の使用経験

		いずれかの薬物使用経験あり			いずれの薬物も使用経験なし	小計	無回答(主問)	無回答	合計
		この1年に使った	過去に使ったことがある	該当薬物は使っていない					
注射器・注射針を使ったドラッグや薬物	n	23	74	412	487	996	15	89	1100
	%a	2.3	7.4	41.4	48.9	100.0			
	%b	4.5	14.5	80.9		100.0			

注) %aは、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合 注) %bは、何らかの薬物を使用した経験のある人のうちの割合

注射針・注射器を使ったドラッグを使った経験のある人は全体の9.7% (%a)、薬物使用経験のある人のうちでは19.1% (%b)。

セックスの時に薬物を使った経験

		いずれかの薬物使用経験あり			いずれの薬物も使用経験なし	小計	無回答(主問)	無回答	合計
		この1年に使った	過去に使ったことがある	該当薬物は使っていない					
セックスの時にドラッグや薬物を使った経験	n	98	353	86	487	1024	15	61	1100
	%a	9.6	34.5	8.4	47.6	100.0			
	%b	18.2	65.7	16.0		100.0			

注) %aは、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合 注) %bは、何らかの薬物を使用した経験のある人のうちの割合

セックスの時にドラッグを使った経験のある人は全体の44.0% (%a)、薬物使用経験のある人のうちでは84.0% (%b)。

(1-2) 薬物開始時期

Q. 次のドラッグや薬物をはじめて使ったのは、ご自身のHIV感染を知る前でしたか、知った後でしたか

		HIV感染を知る前	HIV感染を知った後	時期不明だが使った	使ったことはない	いずれの薬物も使用経験なし	小計	無回答(主問)	無回答	合計
		脱法ドラッグ / ラッシュ / ガス / シンナー	n	483	35					
	%a	44.5	3.2	4.1	3.3	44.9	100.0			
	%b	85.9	6.2	7.8			100.0			
5MeO-DIPT / 大麻 / 覚せい剤 / MDMA / ヘロイン / コカイン	n	276	44	17	260	487	1084	15	1	1100
	%a	25.2	4.1	1.6	24.0	44.9	100.0			
	%b	81.9	13.1	5.0			100.0			
注射器・注射針を使ったドラッグ	n	58	41		456	487	1042	15	43	1100
	%a	5.6	3.3	0.0	43.8	46.7	100.0			
	%b	58.6	41.4	0.0			100.0			

注) %aは、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合 注) %bは、質問項目の該当薬物を使用した経験のある人のうちの割合

脱法ドラッグ / ラッシュなどの使用経験のある人のうち、感染判明前に始めた人が85.9%、感染判明後に始めた人が6.2%。

ゴメオ / 覚せい剤 / MDMAなどの使用経験のある人のうち、感染判明前に始めた人が81.9%、感染判明後に始めた人が13.1%。

注射器・注射針を使ったドラッグの使用経験のある人のうち、感染判明前に始めた人が58.6%、感染判明後に始めた人が41.4%。

(1-3) 薬物使用量のコントロール感

Q. ドラッグや薬物を使う量や回数について、ご自身でコントロール・調整できていますか

	n	%
できている	423	75.4
おおよそできている	95	16.9
あまりできていない	28	5.0
できていない	15	2.7
小計	561	100.0
非該当	487	
無回答（主問）	15	
無回答	37	
合計	1100	

薬物使用経験のある人のうち 92.3% は、薬物の使用量や回数をコントロールできている（「できている」「おおよそできている」）と感じている。

(2) 必要な薬物の情報や相談

Q. ドラッグや薬物について、あなたが必要とおもう情報や相談を教えてください（複数回答）

	n	%
薬物についての基礎的な情報	471	47.6
薬物をやめるための方法や支援先	233	23.5
HIV と薬物との関係について	342	34.5
友人やパートナー、家族などの薬物使用についての相談	103	10.4
とくに必要な情報や相談はない	318	32.1
その他具体的に教えてください	28	2.8
全体	990	
無回答	110	
合計	1100	

全体の 32.1% の人は、とくに必要な情報や相談はないとしている。

「薬物の基礎的な情報」47.6% の他、「HIV と薬物との関係」34.5%、「薬物をやめるための方法や支援先」23.5% を挙げた人が多かった。「友人やパートナーなどの薬物使用の相談」も 10.4% の人が挙げていた。

(3) 薬物の相談先

Q. ドラッグや薬物について話したり相談したことのある先はどれですか（複数回答）

	n	%
友人	318	33.7
パートナー・恋人・夫・妻	139	14.7
親・きょうだい・親せき	27	2.9
HIV 陽性者の知人	91	9.7
インターネット上の知人	18	1.9
ボランティア・患者支援団体	12	1.3
薬物使用者の集まり（N.A.、ダルクなど）	13	1.4
保健所	1	0.1
精神保健福祉センター	2	0.2
HIV 治療の医療者	65	6.9
精神科・神経内科	21	2.2
薬物専門の医療機関	10	1.1
誰にも話したり、相談したことはない	529	56.1
全体	943	
無回答	157	
合計	1100	

誰にも話したり相談したことはない人が 56.1% と多かった。主な相談先は、友人、パートナー・恋人・配偶者、HIV 陽性者の知人など、インフォーマルな関係の人であった。

HIV 治療の医療者は 6.9%。

薬物専門の医療機関や精神保健福祉センター、保健所などの専門相談機関に相談した人は極わずかであった。薬物使用者の集まり（NA、ダルク等）の利用も 1.4% と少なかった。

2014年11月発行

平成26年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
第3回「HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」
A調査【ブロック拠点病院とACC調査】報告書

編集：若林チヒロ(埼玉県立大学)
：生島嗣(特定非営利活動法人ぷれいす東京)

地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト
<http://www.chiiki-shien.jp/>

研究班へのお問い合わせ

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403
特定非営利活動法人ぷれいす東京 研究事業部 担当：生島、大槻
kenkyu.jimu@gmail.com

調査研究へのお問い合わせ

埼玉県立大学健康開発学科 若林チヒロ
wakabayashi@spu.ac.jp

データを引用される際にはご一報ください。

本報告書は、平成26年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」班（研究代表：樽井正義）
分担研究「HIV陽性者の生活と社会参加に関する研究」（分担研究者：若林チヒロ）
の助成にて制作しました。